

武蔵オイルシール工業は インナーとアウトターのオイルシール 同時交換を推奨します！

現状

アウトター（シャフト） ⇒点検時にブレーキを点検する為に外し交換する。

インナー（ハブ） ⇒グリスが漏れていなければ交換しない。

注意

オイルシールは消耗品です！

＼(・ω・)ココ重要！

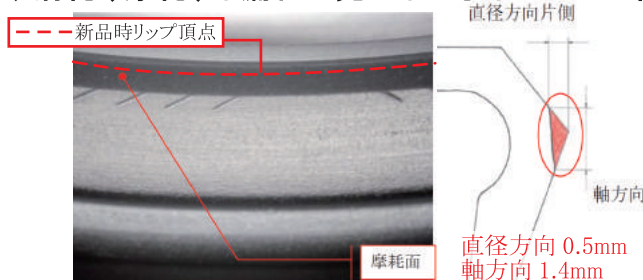
近年、トラックやトレーラーの火災に関して社会も敏感になってきており、運行管理面でも厳しい基準になってきています。オイルシールもタイヤやブレーキ同様消耗品です。再利用は不可となっており、取り外しはもちろん一度シャフトを抜いたら交換してください。

◆インナーが摩耗してグリスが飛散したドラム内◆



ベアリングが焼きついている

◆消耗（摩耗）し漏れが発生したオイルシール例◆



でも... 異音がしても ハブに抵抗が発生しても グリスが漏れても

大きな貨物車両では気づきません！

(特に長距離走行時は発熱しやすく、他の部品への影響が拡大しやすくなります)

漏れてからでは手遅れです！！



グリスが漏れたら交換すれば・・・？

異物が混入しグリスが吸収。発熱しグリス大部分が揮発してしまい、漏れに至らずベアリングは焼きついてしまっています。実際、ハブベアリングが原因の火災は多く、定期交換していれば防げた事例はかなりの数です。

参考：国土交通省リコール課 HP / 日本自動車整備振興会連合会 ホイールベアリングの整備不良による車両火災防止について



アウトターはブレーキメンテナンス時に交換する事もありますが、アウトターよりブレーキに近い分、劣悪な環境のインナーももちろん同様に消耗（摩耗）します。再利用率を高めず漏れる前に交換することで、事故や火災を未然に防ぎ、安全で安心な運行を実現しましょう！

先進の密封技術をクリエイトする



武蔵オイルシール工業株式会社